



国立研究開発法人 国立循環器病研究センター
移転建替整備事業

募金趣意書

募集期間：2016. 10. 1～2020. 3. 31



(理事長挨拶とセンターの使命)

移転建替整備事業へのご協力のお願い



国立研究開発法人国立循環器病研究センター
理事長 小川 久雄

(理事長からのお願い)

国立循環器病研究センターは、1977(昭和 52)年の開設以来、高度専門医療に取り組むナショナルセンターとして「国の医療政策と一体となって国民の生活を守る」使命を持ち心臓病、脳卒中、大動脈を含めた血管疾患、高血圧症などの循環器病の制圧に努めてまいりました。

しかしながら、開設以来 40 年が経過し、建物・設備の面から国内外の医療界をリードする新たなイノベーションを展開していくためには支障が生じてきています。

このようなことから、2013(平成 25)年 6 月に吹田操車場跡地 (JR 岸辺駅前) への移転建替を決定し、新しい時代にふさわしい新センターを建設し、2019 年 7 月に移転することとしました。

当センター移転建替整備事業は、開設以来最大のプロジェクトであり、事業達成に向け職員一丸となって取り組んでいます。厳しい経済情勢ではありますが、本事業の趣旨をご理解いただき、ぜひとも募金にご賛同、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

当センターの使命

「循環器」を対象とする唯一の国立高度専門医療研究センターとして、国民の健康と幸福のため、循環器疾患の究明と制圧に挑みます。

予防からリハビリまで“健康寿命”を推進する

心筋梗塞や脳卒中死亡数を減らすことだけが、当センターのミッションではありません。予防と早期診断、発症後の急性期医療による迅速な治療、さらには適切なリハビリでの後遺症からの脱却、予防法の確立など、総合的な取組で“健康寿命”を推進することこそ、重要なポイント。20年後、30年後の社会に大きく貢献する自負を持って歩んでいます。

地域医療モデルの実践と情報の普及

循環器病の多くは時間との闘い。超急性期治療を含めた新たな治療法と、医療モデル地区の確立こそ、未来を開く鍵となります。このため当センターでは、地域と密着してデータを蓄積。「都市型住民の追跡調査(吹田コホート研究)」から、学校での「心肺蘇生教育」や、病院間連携などにより安全で安心な“都市型医療環境”を形成し、その成果情報を国内外に広く提示しています。

明日の循環器病医療のリーダー育成

最先端医療の現場である当センターだからこそ、はじめて現場につきつけられる課題が明らかになります。その課題の解決を図る最高水準の研究所が一体化する中で、当センターはレジデント育成に 30 年にわたって取り組んできました。この優れた医療環境で、課題に立ち向かい、明日の循環器病医療の“牽引役”となるリーダーシップを持つ医師の育成を目指しています。

(新センターの概要と移転後の取組)

新センターの概要

～平成 30 年度完成に向けて、病院と研究所を一体的に整備～

現在の計画では、現行の約 1.5 倍の床面積 11 万 8 千㎡に拡大します。東海道線 JR 岸辺駅からは通路を通して直結し、吹田サービスエリアから救急車両が新センターまで 5 分に到着するなど、交通アクセスが現在よりも改善される計画となっています。また、隣接地には吹田市民病院が移転し、センターとの間には商業施設や宿泊施設を設けるなど、患者さんや職員のアメニティの向上に向けて取り組んでいます。



【新センターの規模 (予定)】

建物構造：地上 10 階、塔屋 2 階、
地下 2 階

病床数：550 床

床面積：約 12 万 9 千㎡
(地下駐車場 1 万 1 千㎡を含む)

アクセス：JR 岸辺駅からエントランスデッキで接続



移転後の取組

～オープンイノベーションによって最先端医療・医療技術の開発で世界をリード～

現在、新しい医薬品や医療機器を開発するためには、産業界や大学との連携をいかに進めるかということが重要です。新センターでは、研究開発基盤センターを中心にトランスレーショナルリサーチをさらに発展させ、民間企業の研究部門や他の大学が参入できるような構造にすることを計画しています。

～オープンイノベーションセンターの創設～

民間企業等との連携を深めるため、共同研究の拠点となるオープンイノベーションセンターを新センター内へ設置いたします。病院や研究所と「一つ屋根の下」で、国立循環器病研究センターの研究者等と密接な連携が可能であるとともに、循環器病や健康に関して当センターに蓄積されている様々なデータや試料、最先端の設備の利用が可能となります。また、共同研究のサポートや更なる連携のコーディネート、企業等同士のオープンな連携促進を行う体制を整備したいと考えています。

～国際的な医療クラスターを形成～

新センターを中心とした医療クラスターを形成し、産業界や他の研究機関と包括的に連携していきます。先進医療を実施する中で、課題解決的な研究をする、そして研究成果を事業化して関連産業を集積する。そのように医療クラスターを発展させていきます。



JR 東海道沿線から見た景観イメージ

センターを核とした医療クラスター形成

基本理念（平成26年5月医療クラスター形成会議において合意）

- ① 地域に密着しつつ、ナショナルセンターとしてのミッションである「循環器病の予防と制圧」の拠点を目指す。
- ② オープンイノベーションにより最先端医療・医療技術の開発で世界をリードする。
- ③ オープンイノベーションに連動したエリアの産業活性化により、国際級の複合医療産業拠点（医療クラスター）を形成する。

循環器疾患分野の予防・医療・研究で世界をリードする地域に

地域の名称

北大阪健康医療都市

Northern Osaka Health and Biomedical Innovation Town (NohBIT)

愛称：健都（KENTO[※]）

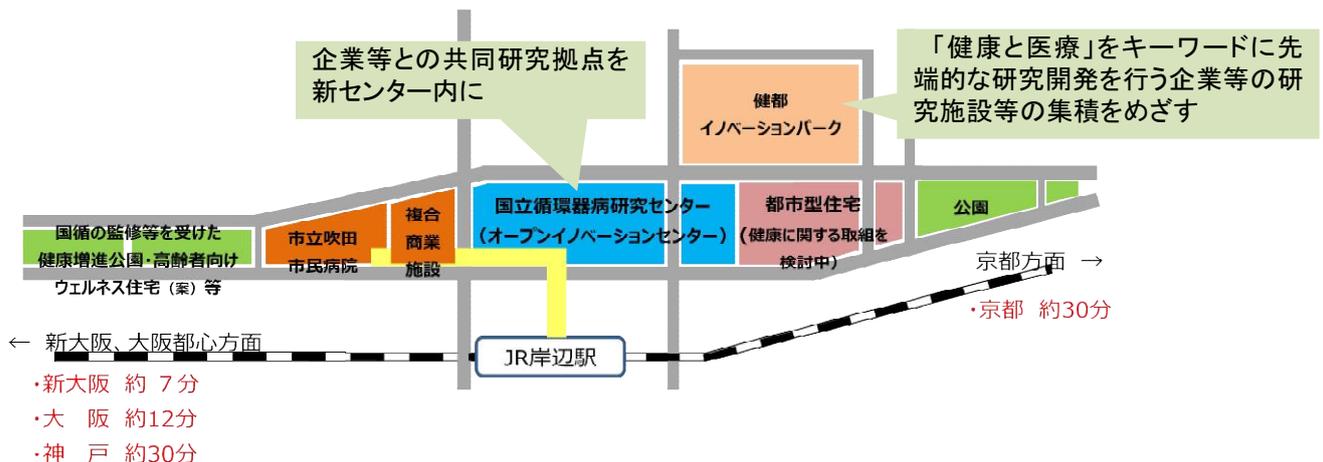
※循環器病予防に必要な **K**nowledge（正確な知識、知の集積）、**E**xercise（適度な運動）、**N**utrition（適切な栄養・食事）と **T**own（まちづくり）の頭文字を並べたもの



北大阪健康医療都市

健都

全体のゾーニング

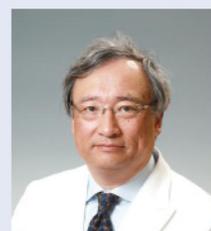


病院

hospital

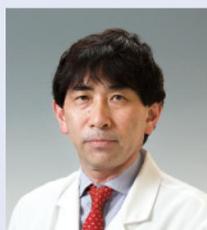
最先端医療のスペシャリストたちが、
全力で循環器病の克服をめざしています。

心臓血管疾患と脳血管障害の両方に高度の医療を安心・安全とともに提供する、世界でも画期的な最先端の組織です。わが国唯一の循環器病に特化した「国立高度専門医療研究センター」に位置づけられ、研究所や研究開発基盤センターと連携を密に、世界レベルの新しい予防や治療法の開発をすすめています。



病院長

小林 順二郎



副院長

安田 聡



副院長

豊田 一則



副院長

飯原 弘二



看護部長

三井 佐代子

病院テーマ

医療

救命救急医療
侵襲的・介入的医療
管理・予防医療
高度先駆的医療

研究

次世代医療開発

教育と人材育成

専門医の育成
専門医療職の育成
高度医療研修

情報発信

医療モデル発信
疾患啓発・教育

病院の組織

心臓血管内科部門

冠疾患科
血管科
心不全科
肺循環科
不整脈科

脳血管部門

脳血管内科
脳神経内科
脳神経外科

中央部門

脳血管リハビリテーション科
心血管リハビリテーション科
臨床栄養部
臨床検査部
病理部
臨床工学部
手術部
麻酔科
医療情報部
医療安全室
感染対策室
教育・研修部

心臓血管外科部門

心臓外科
血管外科

小児循環器・周産期部門

小児循環器科
小児心臓外科
周産期・婦人科部

移植部門

移植医療部

看護部

薬剤部

生活習慣病部門

高血圧・腎臓科
動脈硬化・糖尿病内科
予防健診部

放射線部

臨床試験推進センター

ゲノム医療部門

臨床遺伝相談室
遺伝子検査室

循環器病統合イメージングセンター

病院倫理委員会

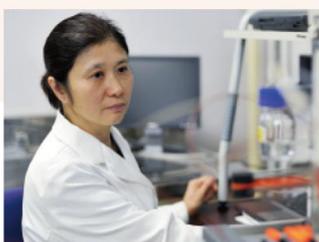


研究所

Research
institute

最高水準の研究に取り組みながら、 次代の確かな循環器病医療をめざしています。

臨床現場での課題を研究し、その研究成果を臨床現場に還元し課題解決をはかるのが、当センター研究所の最大の特長です。病院と一体となって開発を進めている世界最小の補助人工心臓や、ペプチドをはじめとするいくつもの生理活性物質などの、臨床応用に積極的に取り組んでいます。今後も循環器病制圧のために研究活動をいっそう活性化させてまいります。



所長

望月 直樹



研究所の組織

基盤医科学部門

分子生物学部

生化学部

分子生理学部

分子薬理部

細胞生物学部

基盤プロジェクト部

病態医科学部門

分子病態部

病態ゲノム医学部

血管生理学部

心臓生理機能部

病態代謝部

病態プロジェクト部

先端医工学部門

人工臓器部

循環動態制御部

生体医工学部

画像診断医学部

再生医療部

医工学プロジェクト開発部

研究推進支援部門

研究企画調整室

動物実験管理室

研究情報基盤管理室

研究安全管理室

寄付プロジェクト部門

肺高血圧先端医療学研究所

先端不整脈探索医学研究所

研究テーマ

ペプチド・タンパク質研究

循環器系に作用する生理活性ペプチドとしてグレリンなどを発見し、創薬研究や病態研究を続けています。

遺伝子・ゲノム研究

循環器病に関連する遺伝子・ゲノムの変化を明らかにし、テーラーメイド医療の実現をめざしています。

再生医科学、人工臓器開発

心臓弁、心筋、血管、虚血障害脳組織などの循環器系臓器の再生医療についての先駆的研究や人工臓器の開発を行っています。

ナノメディスン

原子分子レベルを操作し医療に活かすナノメディスンの先駆的研究に取り組んでいます。

生理機能と画像解析

循環器病の予防・診断・治療のために、PETをはじめ最新機器を駆使し病院と共同研究を行っています。

研究開発 基盤センター

research and
development
initiative center

研究開発基盤センターの組織

臨床研究部

データサイエンス部

知的資産部

予防医学・疫学情報部

教育推進部

セルプロセッシングセンター (CProC)

トレーニングセンター



医工連携・産学官連携のハブとなり、 研究～製品化～臨床を一体化して 医療の未来を拓きます。

日本には最先端の医療技術を開発するシーズが数多くありますが、医療現場でのニーズはまだ満たされていません。「研究開発基盤センター」は、この両者をマッチングさせ、また国立循環器病研究センターが長年蓄積してきた研究・治療の実績や優秀な人材、先進的設備など、卓越した知的資産を活用する「医療資産のプロデューサー」として、基礎・臨床研究から製品化までをワンストップで実現するオープンな機関です。



センター長
望月 直樹



副センター長
巽 英介

30年の知的資産から生まれる イノベーションの「かずかず」

実績

ひとりでも多くのスタッフに、人工心臓の植込ノウハウを【トレーニングセンター】

最先端の医療機器には、それを有効活用するためのトレーニングが必要です。たとえば人工心臓を開発しても、それを人体に正確に植込むための技術がなくてはなりません。そこで研究開発基盤センターでは、日本初の人工心臓植込のトレーニングセンターを設置。他の医療機関のスタッフにも広く施術ノウハウが修得できる機会を提供しています。日本では数多くの患者さんが人工心臓の植込を待っておられます。そのような「いのちの待ち時間」に応えるため、人工心臓の植込手術が可能な医療機関を日本にひとつでも増やせるよう、トレーニングセンターは日夜活動しています。



トレーニング風景



ハイブリッドオペ実験室



バイオバンク

NCVCBioBank

バイオバンク

次世代の医療ニーズを見据えて、 研究基盤整備に取り組みます。

NCVCバイオバンクは、心疾患・脳血管疾患に特化した血液、組織などの生体試料を保存、管理し学術研究、創薬に向けて有効に活用する目的をもって始めました。生体試料と主要な医療情報は匿名化し、当センター内はもちろんのこと国内外の研究者にも提供していきます。



バイオバンク長
植田 初江



バイオバンクの組織

バイオリソース管理室
データリソース管理室
個人情報管理室
NCBN推進室



循環器病 統合情報センター

Center for Cerebral and
Cardiovascular Disease
Information

循環器病統合情報センター

実態に則した循環器病対策を 立てることを目指します。

循環器病は日本人に大変身近な病気であり、日本人の死因の約3分の1を占めます。また、平均寿命と健康寿命の差は約10年ありますが、循環器病に伴う後遺症はその主な原因となります。さらに、国民医療費に占める循環器病の割合は約20%で、13%のがんを上回ります。こうした循環器病の実情に則した予防や治療の対策を立てるためには循環器病の実態を正確に把握することが重要です。そのために必要となる循環器病の情報を全国の医療機関から広範囲に収集することを目的として、2014年4月1日に開設されました。



センター長
宮本 恵宏

循環器病統合情報センターの主な目的

- 1 全国の循環器病の情報を収集し、罹患等の情報を正確に把握すること
- 2 循環器病の詳細な情報を収集するための院内登録を整備すること
- 3 収集した情報を予防や治療に関する研究に広く利活用できるようにし、その成果を国民に還元すること
- 4 共通リスク因子をもつ脳卒中と心血管疾患を同一のデータベースで収集すること



国立循環器病研究センター National Cerebral and Cardiovascular Center

沿革

1977 (昭和52)年	6月	初代総長吉田常雄就任
	7月	国立循環器病センター開設式典
	8月	診療開始、研究所業務開始、一般病棟(3病棟)および特殊病棟(ICU)開棟
	10月	特殊病棟(CCU)開棟
1978 (昭和53)年	4月	レジデント制度開始
	5月	一般病棟(6病棟)および特殊病棟(乳幼児、SCU)開棟
1979 (昭和54)年	5月	一般病棟(2病棟)および特殊病棟(NCU)開棟
1980 (昭和55)年	4月	一般病棟(1病棟)開棟
1981 (昭和56)年	3月	図書館竣工
1982 (昭和57)年	1月	周産期病棟開棟
1983 (昭和58)年	8月	第2代総長曲直部寿夫就任
1986 (昭和61)年	2月	WHO研究研修協力センター開所
	6月	新館竣工
1987 (昭和62)年	5月	薬剤部設置
	11月	創立10周年記念式典挙行
1990 (平成2)年	3月	検査棟竣工
	4月	第3代総長尾前照雄就任
1992 (平成4)年	3月	リハビリテーション棟竣工
1993 (平成5)年	9月	特定機能病院承認
1995 (平成7)年	4月	第4代総長川島康生就任
1996 (平成8)年	3月	循環器病診療総合支援全国ネットワークシステム(循ネット)設置
	10月	第5代総長菊池晴彦就任
1997 (平成9)年	10月	心臓移植対策室設置
	11月	センター創立20周年記念式典
1998 (平成10)年	7月	臓器提供対策室設置
1999 (平成11)年	3月	治験管理室設置
2000 (平成12)年	3月	バイオテクノロジー棟竣工
	7月	第6代総長山口武典就任
2001 (平成13)年	3月	重症心不全・移植病棟開設
	4月	第7代総長北村惣一郎就任
2002 (平成14)年	2月	ガンマナイフ棟竣工
2004 (平成16)年	10月	先進医工学センター開設
2005 (平成17)年	10月	臨床研究センター開設
2006 (平成18)年	3月	循環器病克服10ヵ年戦略策定
2007 (平成19)年	12月	センター創立30周年記念式典
2008 (平成20)年	4月	第8代総長橋本信夫就任
2009 (平成21)年	4月	セルプロセッシングセンター設置
2010 (平成22)年	4月	独立行政法人に移行
	4月	初代理事長橋本信夫就任
	4月	研究開発基盤センター開設
	7月	小児移植用クリーンルーム完成
	10月	新・心臓血管集中治療室(CCU)開棟
2011 (平成23)年	1月	ハイブリッド手術室システム導入
	7月	早期・探索的臨床拠点に選定
	8月	保育所を設置
	10月	医療クラスター棟開棟
	11月	バイオバンク設立
2012 (平成24)年	1月	電子カルテ導入
	5月	ドクターカー導入
	12月	『国循の美味しい! かるしおレシピ』出版
2013 (平成25)年	6月	吹田操車場跡地への建替移転が決定
	12月	『続国循の美味しい! かるしおレシピ』出版
2014 (平成26)年	3月	移転用地の引渡完了
	4月	循環器病統合情報センター開設
	5月	医療クラスター形成会議設置
2015 (平成27)年	3月	『1日1品から始める国循のかるしおレシピ練習帖』出版
	4月	国立研究開発法人に移行
	4月	創薬オミックス解析センター開設
	7月	第2回医療クラスター形成会議開催
	10月	『国循のかるしお手帳』出版
2016 (平成28)年	2月	第2代理事長小川久雄就任
2017 (平成29)年	3月	『続々国循の認知症リスク減! かるしおレシピ』出版
	8月	センター創立40周年記念式典

新しい国立循環器病研究センターのイメージ



岸辺駅西側から見たイメージ

ご寄付のお願い（寄付要項）

1. 寄付目的

国立研究開発法人国立循環器病研究センター移転建替整備事業に係る資金

- ・患者への低侵襲的治療が可能となる最先端の医療機器等を整備するため
- ・小児科外来 待合室・プレイルームの充実のため
- ・小児移植医療の充実のため、小児病棟等の無菌室の整備を行うため
- ・新たに設置する新生児治療回復室（GCU）6床の整備のため
- ・移植医療・再生医療の強化のための整備を行うため
- ・現センターから新センターへ入院患者を安全かつ迅速に搬送する手段を確保するため
- ・国循を含む健都（北大阪健康医療都市）の環境美化や環境保全の取組のため

2. 申込受付期間

2016年10月1日～2020年3月31日

3. 寄付金額

1口 1万円としておりますが、できるだけ多数口のご協力をお願いします。

4. 申込方法等

①クレジットカード等でのお申し込み

クレジットカード決済等にて、すぐにご寄付いただけます。

ホームページの移転特設サイト内の寄付のページにございます「クレジットカードで寄付」ボタンより決済代行サービスサイトへ移動いただけます。そこから入力フォームに従って必要事項をご入力の上、お申し込みください。

※巻末のQRコードを読み取っていただきますと、ホームページの移転特設サイト内の寄付のページにすぐアクセスできます。

②書面でのお申し込み

別紙「移転建替整備事業寄付申出書」に所定事項を記載の上、下記のあて先へご送付ください。後日、移転建替推進室よりご連絡（振込依頼書をお送り）いたします。

（あて先）

国立循環器病研究センター 移転建替推進室

〒565-8565 大阪府吹田市藤白台5-7-1 電話 06-6833-5012(内2986)

5. 寄付金に対する免税優遇措置

当センターは所得税法第217条第1項第1号および法人税法施行令第77条第1項第1号に基づく特定公益増進法人として定められています。当センターに寄付金を頂いた個人・法人は

税制上の優遇措置が受けられます。

① 個人の場合

確定申告の際、寄付者の選択により、「**税額控除**」あるいは「**所得控除**」（どちらか有利な制度を選択）を受けることができます。

○**税額控除**・・・年間所得税額の25%を限度として、その年の寄付金の合計額から2千円を差引いた金額の40%が所得税額から控除されます。

○**所得控除**・・・年間総所得額の40%を限度として、その年の寄付金の合計額から2千円を差引いた金額が、その年の所得から控除されます。

② 法人の場合

法人税法の規定により、一般の寄付金の損金算入限度額とは別枠で損金算入限度額まで「**損金**」に算入することができます。

※損金算入限度額は、その法人の資本や所得の金額によって異なります。詳しくは、お近くの税務署、税務相談室や税理士にご確認ください。

6. ご寄付に対する顕彰

国立循環器病研究センター移転建替整備事業に係る寄付を賜りました皆様に対し、次のような顕彰をさせていただきます。

①ご寄付いただいた皆様に感謝状を贈呈します。

②寄付者の公表

寄付者のお名前（個人、団体名）は、広報誌・ホームページ等で広く紹介させていただきます。

なお、広報誌・ホームページ等への掲載の可否につきましては、事前に確認させていただきます。

③銘板掲載

寄付額が100万円以上の個人、団体は、「国立循環器病研究センター移転建替整備事業寄付者銘板」（仮称）にご芳名を刻み、末永く顕彰させていただきます。

なお、銘板への掲載の可否につきましては、事前に確認させていただきます。

7. 寄付に関する問い合わせ先

国立循環器病研究センター 移転建替推進室

〒565-8565 大阪府吹田市藤白台5-7-1 電話 06-6833-5012(内 2986)

ご連絡・お問い合わせ先

国立研究開発法人 国立循環器病研究センター
移転建替推進部 移転建替推進室

〒565-8565 大阪府吹田市藤白台 5-7-1

電話：06-6833-5012

Fax：06-6833-9865



こちらのQRコードを読み取っていただきますと、
センターのホームページ（移転特設サイト）へアクセスいただけます。